

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇エコプロ2022出展ブースの紹介

## ■随想

◇エスワティニ王国旅行記（8）学校

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

## ■トピックス

## ◇エコプロ2022出展ブースの紹介

12月7日（水）～9日（金）、日本最大規模の環境展「エコプロ 2022 <環境問題とSDGs に向き合い持続可能な社会へ>」が東京ビッグサイトで開催されました。塩ビ工業・環境協会（VEC）は、塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）とリアルでは4年ぶりにブース出展しました。メルマガでは展示内容を中心にご紹介します。

私たち VEC と JPEC は、出展ブースのコンセプトを【生活を豊かにする PVC】と定めて、①身の回りの PVC 製品の展示、②PVC 製品による社会貢献の紹介（電力・水・半導体インフラでの活躍、医療・福祉分野での活用、水平リサイクル事例、省エネ性など）、③PVC アワード 2021 入賞作品を紹介しました。

また、PVC 樹脂・製品の特長をパネル展示し、来場者（約 5,000 人）に“塩ビって知ってる？”クイズラリーに参加してもらいました。

## ブース全体のご紹介

私たちのブースは透明なグランピングドーム（透明塩ビ板で作成）を中心に展示台 4 基を配置し、PVC 製品による社会貢献を紹介しました。

グランピング内は PVC アワード 2021 入賞作品の展示コーナーに、ブース奥の壁面には、身近な塩ビ製品を展示、紹介しました。また、両サイドにパネルを展示、左奥にインフォメーションを設置しました（白を基調にしつつ、それぞれの展示台はビビッドなカラー壁紙を使用し、ターポリンバナーは VEC と JPEC のイメージカラーとしました）。



## 身の回りの PVC 製品

私たちの身の回りには多くの塩ビ製品があり、便利で衛生的な生活に役立っていることを来場者に紹介しました。

ほとんど全員の方がインテリアや雑貨に使われているプラスチックが塩ビ樹脂であるとの認識がなく、一様に驚かれていました。また、岩塩と PVC 粉末を実際に触っていただき、PVC 粉末にそれぞれの配合技術と加工技術を加えることでブース内に展示している多様な製品が出来上がっている事を説明しました。



## PVC 製品による社会貢献の紹介

### ・医療・福祉分野

この展示台では、医療・福祉で活躍している塩ビ／PTPシート（錠剤の包装）や血液バッグ、義手や義足などを紹介しました。

### ・インフラでの貢献

便利で快適、衛生的な生活を支える裏方として活躍している塩ビを紹介しました。

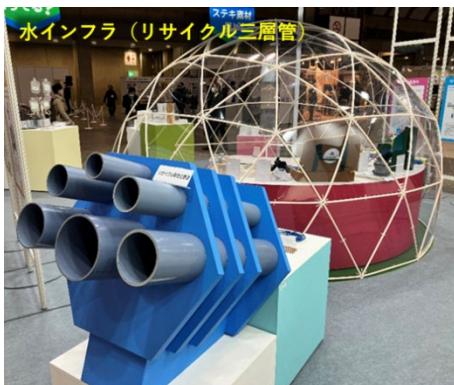
自動車や家電製品、携帯などに使われ、便利で快適な生活基盤を支える半導体の製造工程で塩ビは多く使われています。塩ビならではの耐酸・アルカリ性や耐薬品性、難燃性、透明性などの特性が活かされています。

また、あまり人目に付かないところで、水インフラと電力インフラを支えている塩ビも紹介しました。



### ・水平リサイクルの事例紹介（タイルカーペット）

この展示台では、東リ株式会社の協力で、農業用塩ビシートのリサイクル、および、タイルカーペットの水平リサイクルについて展示しました。



それぞれのリサイクルタワーでは、回収された廃棄物とリサイクル原料、実際に製造されている製品を見ていただきました。

中でも、回収したタイルカーペットをそのまま粉砕してリサイクルする技術については、リサイクルの進め方（考え方）も含めて、リサイクル関係者をはじめ多くの方が強い関心を示されていました。

エコプロ 2022 の 3 日間の広報活動を通して、少なからぬ方々に塩ビのファンになっていただけたと感じています。

最後に今回のエコプロ 2022 では、多くの企業様、団体様のご協力が出展が実現しました。また、当日の運営では JPEC の方々、VEC 会員会社の方々のご協力の下、トラブルなく展示会を運営することができました。感謝いたします。ありがとうございました。



## ■ 随想

### ◇ エスワティニ王国旅行記（8）学校

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

エスワティニ王国の小学校は学校数の不足もあり、午前と午後の 2 部制です。午前の部の始業は 7 時前後ですから、午前 6 時頃から子供たちは登校を始めます。学校まで 1 時間以上徒歩で通学する生徒はもっと大変。午前 5 時台に家を出る子どもたちも沢山います。

学校での就業年数は男女合わせた平均で 11 年（男性:12 年、女性：11 年 2013 年現在）なので、ほとんどの子どもたちは高校までは進学するようです。

授業は全て英語で行われます。

高校はある程度大きな街には必ずあり、公立高校以外にも私立高校や教会が運営している高校もあります。基本的に地元の小中学校を卒業しそのまま地元の高校に進学するので、一部の私立高校に進学するのでなければ受験戦争はありません。

高校、普通科は少なく、工業や農業、家政などを教える高校が多く、卒業後すぐに働けるような知識や技術が習得できる教育が行われています。また、普通科を卒業しても事務職の求人はほとんどないため就職する人はほとんどなく、普通科＝大学進学というのが通常のようなようです。

大学、国立大学は 1 校、私立大学の数がいま一つはっきりせず、専門学校のような

大学のような学校がいくつかあるようで、同じ学校でも、人により「あれは大学」、「専門学校」と判断が分かれています (もしかすると、学部により、大卒の資格、専門学校卒の資格と異なる学位が付与されるのかもしれませんが)。

医学部はなく、ほとんどの学生は隣国、南アフリカ共和国の医科大学か、正式に国交がある台湾の医科大学に進学します。

この医学生たち、医師の資格を取得した後、そのまま南アフリカ共和国や台湾で就職してしまい、エスワティニ王国に戻り医師にならないことが医師不足となる原因となっています。

給与だけでなく医療設備も全く異なるので、若いドクターはせっかく学んだ知識が生かせないと判断しているようです。

ちなみに、エスワティニ王国では、台湾の医学の信頼度が非常に高く、国王をはじめ政府高官などは病気になると台湾の病院に入院、治療を受けることがほとんどです。

学校の教員は、当然、スワジ人がほとんどですが、世界各国から、ボランティアとして派遣されている教員の方も沢山おられます。

このような教員は、課せられた授業を受け持つだけでなく、それぞれの国の文化や言葉を伝えるので、子どもたちも外人や海外に対する知識が高く国際的です。

日本人も教員として活躍されておられる方が数名居られるそうですが、やはり英語の壁があり、小中高校の教員ではなく、大学や専門学校の技術系授業を受け持たれているそうです。

このような先生の授業を受けた人は、簡単な日本語も学ぶようで、私が滞在している地域には日本人は居らず、尋ねてくる人もほとんどいないはずの街ですが、流暢な日本語で「こんにちは (^\_^)」と声を掛けられ、びっくりしました。

上記のような教育を受けるのは、スワジ人。

この国の経済を実質的に牛耳っている白人 (エスワティニ王国生まれ、エスワティニ王国育ちなので、国籍はエスワティニ王国人です) の子どもたちは、小学校の頃からイギリスや南アフリカ共和国などの寄宿制学校に入学し、大学を卒業すると農場や工場経営者として戻って来ます。

当然、生活様式もヨーロッパ式のものを持ち帰るので、住宅や食べ物もスワジ人とは全く異なります。

日本の住宅と同じようなヨーロッパ式の家に住んでいる白人。

6~10人家族が台所やトイレもない1~2部屋の家に住み、トイレや台所、洗濯場が共同の住宅に住んでいるスワジ人。

彼らはそれぞれの生活を、人を、どう見ているのでしょうか？

ただ、傍から見ていると、スワジ人、悲観している様子は見られません。  
現在の環境を受け入れ、その中で、皆さん陽気に、楽しそうに生活しています。  
無理に背伸びをして白人のような生活を望んでいる人は、私がい、話した人の中にはあまり居られず、身の丈に合った生活をされていました。

(続く)

次回は、(9) エスワティニ王国あれこれ (その1) です。

⇒ [バックナンバー](#)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---